国語	第２学年	熊野町立熊野東中学校	指導者　沖野　真吾

単元名

「短歌を楽しむ」
～自分の気に入った短歌を紹介しよう～

本単元で育成する資質・能力　高い志，知識，チャレンジ精神，他者理解

単元について

短歌は千年以上の歴史をもちながら，現代でもなお新たな表現の形が生み出されている日本独自の定型詩である。また，五・七・五・七・七の三十一音という限られた音数に作者の心象が表現されていることから，ことばを作者が十分に吟味し，こだわり抜いて使用していると考えられる。

以上のことから，短歌の学習を通して，日本人が長年培ってきたことばに対する思いの深さに触れ，表現の工夫を学ぶことができる。さらに，選び抜かれ，吟味されたことばから想像力を働かせ情景や心情を読み取り，そこに込められた作者の感動や思いに触れることで，生徒自身がものの見方や考え方を深めるうえで大変意義深い単元である。

生徒の実態

令和２年１月に実施した標準学力調査「文章の表現や展開に着目して読み，登場人物の心情をとらえることができる。」の正答率は 40.0％と全国正答率 50.2％と－10.2％差があった。それに対し「アンケート調査の結果課題を読み取り，改善策を考えて書くことができる。」の正答率は 66.4％と全国正答率 61.7％と＋4.7％差であった。

このことから，生徒は課題を読み取り，改善策を考えて書くことは概ねできているが，登場人物の心情をとらえて書くことに課題が見られる。これは，普段の授業の中で，心情に着目して，読み取って書くという活動が定着していないためと考えられる。

単元の指導

本単元を通して，選択した短歌について，作者が三十一文字の短い言葉に込めた思いや感動を，自分なりにイメージをふくらませて捉え，文章化していく学習と，その短歌の魅力について自分なりの批評を加えていく学習を中心に据える。そのために，短歌の基礎知識の学習，表現技法の学習を行い，短歌学習の土台を築いた後，選択した短歌について「いつ」「どこで」「音　・色・匂い」など，言葉から読み取れるイメージを学習シートにまとめ，それをもとに文章化させていく。自分の捉えたイメージを他の生徒と比較していくことで，自分の考えを深めさせ，言葉に対する感覚を磨く場にしていきたい。

さらには，その作品の魅力（表現技法，主題のとらえ方，優れた言語感覚）を自分なりの言葉で文章にまとめていくことで，主体的な読みを促し，作品の深い読みにつなげていきたい。また，学習のまとめとして，まとめた情景と作品の魅力について，他のグループの生徒に伝えていく活動を行うことで，目的意識をもって学習に取り組ませたい。

単元の目標

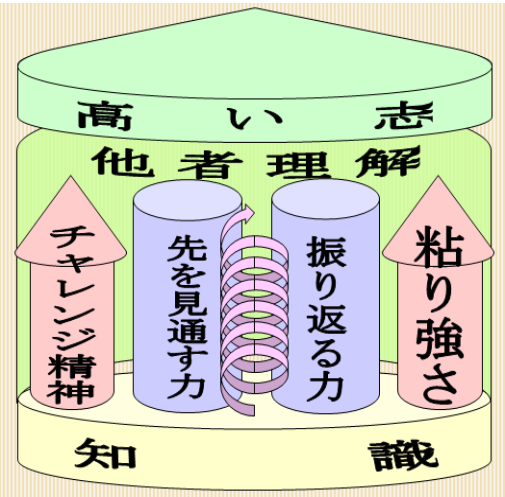
○　短歌の鑑賞に関心を持ち，意欲的に鑑賞文や短歌を読もうとする。【関心・意欲・態度】
○　情景や心情を表す語句に注意して，短歌を読み味わう。【読むこと（１）イ】
○　短歌の表現の工夫などを捉えて，鑑賞したことをまとめる。【読むこと（２）イ】
○　語句の意味に注意して，語感を磨く。【言語についての知識・理解・技能（２）ア】

単元の評価規準

ア　国語への関心・意欲・態度	イ　読む能力	ウ　言語についての知識・理解・技能
単元を貫く言語活動　：　「自分の気に入った短歌を紹介しよう」		
①　短歌の鑑賞に関心を持ち，意欲的に鑑賞文や短歌を読もうとしている。	①　情景や心情を表す語句に注意して，短歌を読み味わおうとしている。 ②　短歌の表現の工夫などを捉えて，鑑賞したことをまとめようとしている。	①　語句の意味に注意して，語感を磨こうとしている。

育成しようとする資質・能力の本単元とのかかわり

本校が身につけさせたい７つの力



〈高い志〉
○　短歌の表現の工夫などを捉えて，鑑賞したことをまとめることができる。

〈知識〉
○　短歌に使われている表現技法を理解することができる。

〈振り返る力〉
○

〈先を見通す力〉
○

〈チャレンジ精神〉
○　短歌に込められた作者の心情を読み取ることができる。

〈粘り強さ〉
○

〈他者理解〉
○　お互い鑑賞文を読み合い，意見や助言をすることができる。

指導と評価の計画

（全４時間）

次	学習内容（時数）	評価				
		関	読	知	評価規準 （評価方法）	資質・能力の評価 （評価方法）
1	課題の設定　情報の収集 ○　「自分の気に入った短歌を紹介する」という学習に見通しをもつ。　（１時間） ・　学習目標を確認し，学習計画を立てる。 ・　短歌の基礎や表現技法の確認をする。	○		◎	ア① （観察） ウ① （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）	知識 （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）
2	整理・分析 ○　教科書の「短歌五首」をもとに，鑑賞文を書く。　（１時間） ・　教科書を読み，筆者の鑑賞文の書き方を分析する。 ・　「短歌五首」の中から気に入った短歌を一つ選び，鑑賞文を書く。	○	◎		ア① （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ） イ①・② （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）	知識 （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ） チャレンジ精神 （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）
3	まとめ・創造・表現 ○　鑑賞文をグループで読み合い，意見や質問，助言をする。（１時間）〔本時〕 ・　書いた鑑賞文の推敲をする。 ・　意見や質問，助言の仕方を確認し，お互いの鑑賞文を読み合い，意見や助言を述べる。	◎		○	イ①・② （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ） ア① （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）	高い志 （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ） 他者理解 （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）
4	実行　振り返り ○　短歌の鑑賞文を他のグループにも紹介する。　（１時間） ・　どの短歌を発表するか決め，グループで鑑賞文をまとめる。 ・　他のグループの短歌を鑑賞し，よいと思った表現や，どんな場面を想像したかなど感想を書く。 ・　学習を振り返り，自己評価をする。		◎	○	イ①② （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ） ウ① （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）	チャレンジ精神 （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ） 他者理解 （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）

本時の学習（３／４時間）

（１）本時の目標

鑑賞文をグループで読み合い，意見や質問，助言をすることができる。

（２）本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項（◇） 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て（◆）	評価規準 （評価方法）	資質・能力の評価 （評価方法）
１　前時の確認をし，本時のめあてを確認する。(5 分)			
○　前時までの確認をする。 ○　本時のめあてを確認する。	◇　鑑賞文を書くためには，語句の意味や表現技法などに注意して，情景や心情を捉えていくことと，読み取ったことから，想像していくことを確認する。		
鑑賞文をグループで読み合い，意見や質問，助言をすることができる。			
○　学習の流れを確認する。	◇　短歌に用いられている表現技法や，読み取ったことから，自分の想像が鑑賞文の中に表現されているか読んでもらい，それに対する意見・質問・助言を行うことを確認する。 ◇　学習の流れを示す。 ①　鑑賞文を推敲する。 ②　他の人の短歌を読み，意見や質問，助言を付箋に書く。 ③　付箋を貼りながら，交流する。		
２　書いた鑑賞文の推敲をする。(5 分)			
○　鑑賞文の推敲をする。	◇　前時に書いた鑑賞文を見直し，推敲しながら文章を仕上げていく。 ◆　書けていない生徒には，教科書の鑑賞文の例を見ながら書くように指示する。	イ①・② （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）	高い志 （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）
３　意見や助言の仕方を確認し，お互いの鑑賞文を読み合い，意見や助言を述べる。(35 分)			
○　鑑賞文の例を見ながら，意見や助言のポイントを説明する。 ○　他の人の鑑賞文を読み，付箋に意見や助言を書き込む。	◇　鑑賞文のポイントを押さえていない鑑賞文と，教科書の鑑賞文を比較しながら，意見を述べるポイントや質問，助言のポイントを説明していく ◇　青の付箋には良い意見を書き，赤の付箋には質問，助言などを書く。	ウ① （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）	
【対話的な学習場面】 意見や質問，助言を行うことで，自分の意見を述べる場面を設定する。			
○　付箋を貼りながら，意見や質問，助言をする。	◇　付箋は青・赤１枚以上書くように指示する。	ア① （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）	他者理解 （観察・ﾜｰｸｼｰﾄ）

【「おおむね満足できる」状況（B）と判断する根拠】
○　付箋に意見や質問，助言を書いている。
〈記述例〉
・意見
鑑賞文を読んだら，作者の心情がよく伝わってきた。
・質問・助言
なぜこの短歌を選んだのか？
表現技法の効果のことを書くともっと伝わりやすい。

【「十分満足できる」状況（A）と判断する根拠】
○　付箋に意見や質問，助言を具体的に書いている。
〈記述例〉
・意見
鑑賞文を読んだら，短歌の中に込められている作者の「切ない思い」がとてもよく伝わってきた。
・質問・助言
なぜ，この短歌を選んだのか？また，この短歌を書いた作者と，同じような心情になった経験はあるのか？
反復法を使うことで，心情をより強く表現していることを鑑賞文の中に書くと，より詳しく説明できると思う。

【「努力を要する」状況（C）と判断する生徒への手立て】
・他の人の意見を参考にしながら，付箋の内容を付け加えて書いてもよいことを伝える。

4　本時の振り返りをする（５分）			
○　まとめを提示する。			
人が書いた鑑賞文を読んで，意見や質問，助言を考えることで，短歌を書いた作者の心情をより深く把握したり，表現技法の効果を知ることができる。			
○　自己評価表を記入する。 ○　次時の予告をする。	◇　授業を振り返って，学んだことや難しかったことを記入させる。 ◇　次の時間は，グループで選んだ短歌の鑑賞文を書き，他のグループに発表することを伝える。		

（３）板書計画

めあて　鑑賞文をグループで読み合い，意見や質問，助言をすることができる。

○　自分の気に入った短歌を紹介しよう
授業の流れ
①　鑑賞文を推敲する。
②　他の人の短歌を読み，意見や質問，助言を付箋に書く。
③　付箋を貼りながら，交流する。
④　まとめ

○　意見や質問・助言を考えるポイント
・語句の意味は適切に捉えているか。
・表現技法の効果を適切に捉えているのか。
・読み取ったことから，想像を広げて書かれているか。
・自分の考えと鑑賞文を書いた人との考えの相違はないか。

○　まとめ
人が書いた鑑賞文を読んで，意見や質問，助言を考えることで，短歌を書いた作者の心情をより深く把握し，表現技法の効果を知ることができる。